

第 16 回 AAAP 大会参加報告

京都大学大学院農学研究科 安田香織

2014 年 11 月 10 日から 14 日にかけて、インドネシア・ジョグジャカルタ・ガジャマダ大学で開催された第 16 回 AAAP 大会に参加いたしましたので、その模様を報告させていただきます。

1. 発表の概要

私は、“Palatability Evaluation of the Feed for Early Fattening Japanese Black Steers Including Soybean Curd Residue and Soy Sauce Cake”という題目をポスター形式で発表しました。豆腐粕及び醤油粕は、現在その大部分が廃棄処分されており、有効利用するための方策として、家畜飼料利用が推奨されています。しかし、豆腐粕と醤油粕をどのような割合で既存飼料と配合すれば、高い嗜好性が得られるかは明らかとなっていません。そこで本研究では、豆腐粕と醤油粕の割合および他の単味飼料の割合を変化させた 3 種の試験飼料が、肥育前期の黒毛和種去勢牛の嗜好性に与える影響について評価をしました。その結果、統計解析法の違いによりわずかに異なる傾向が見られたものの、醤油粕を多く含み、大麦の配合割合が高い飼料が、肥育前期の黒毛和種去勢牛に対して最も嗜好性が高い飼料である可能性が示唆されました。

2. 発表の状況

出発前は、豆腐粕や醤油粕という日本の食品副産物を用いた私の研究に興味を持ってもらえるかとても不安でした。しかし、当日は、インドネシア、韓国、タイと様々な国の方が足を止めてポスターを見て、質問をして下さいました。会場の雰囲気は、とても和やかでフレンドリーな人が多く、初めての国際学会でしたが、緊張もせずリラックスして臨むことが出来ました。また、様々な発表を見ることで、畜産研究の幅広さを実感することができ、これから自身の研究を進めていくにあたって、とても良い刺激となったと思います。



3. 大会の感想

豆腐粕や醤油粕では、海外の人には興味をもってもらえないではないか、という私の考えが覆された 5 日間でした。インドネシアの学生の方が、「とても面白い研究だね」と言って、友達にも私のポスターを紹介してくれた時には本当に嬉しく感じました。しかし、英語での質疑応答では、言葉に詰まる場面も多くあり、英語のスピーキング力の向上は今後の課題だと実感しました。また、大会では研究だけではなく、インドネシアの学生によるダンスや歌を通して文化にも触れることができ、自分の視野を広げるよい経験になりました。最後となりましたが、本学会の参加にあたりプレゼンテーションアワードを授与くださった日本畜産学会の皆さま、大会中ご助力くださった先生方、大会参加にあたり支えていただいた全ての方々に心より御礼申し上げます。

